

平成31年度 東村山市立秋津東小学校 学校評価報告書

学校教育目標

◎すすんで学ぶ子 ○思いやりのある子 ○元気な子

目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】 子供たち一人一人が「思いっきり活動する喜び」「できる・わかる喜び」「知る喜び」「かかわる喜び」などを味わい、すすんで学ぶ子を目指す学校
- 【目指す児童・生徒像】 すすんで学び、認め合い、支えあい、高めあいがらめあての実現に向けて努力する子供
- 【目指す教師像】 個性と能力を発揮し、情熱と教育愛をもって子供たちとかかわる教師

前年度までの学校経営上の成果と課題

基本的な生活習慣が定着しており、話を聞く態度やあいさつをする姿に向上が見られる。業間体育の取組みにより、子供たちの遊びが広がり、体力の向上が見られた。一方で、学力面では、基礎基本の定着が学年によって差が見られる。授業改善を進め、学校全体で組織的に学力向上に取り組んでいくことが課題である。

	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		課題と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標	
学力向上	○学年・学級の実態に応じた授業改善プランを作成し、学習環境を整える。「あきつひがしスタンダード」を徹底し学習ルールの向上を図る。 ○朝読書・音読カード等の取組みを通して読解力を向上させる。	4	4	授業改善プランを作成し、授業改善に取り組んでいる。児童もあきつひがしスタンダードを守り、落ち着いて学習している。学習したことを身に着け、学力として結果にむすびつけていくことが課題である。	4	4	授業改善プランを作成し、授業改善に取り組んできた。ほとんどの児童はあきつひがしスタンダードを守り、落ち着いて学習している。学習内容を身に着け、学力として結果に結びつけていくことが課題である。
	○低学年100冊、中学年40冊、高学年6000ページの読書目標を設定し、達成できるようにする。	4	2	目標に向けて、教員は進捗状態を把握し、働きかけている。読書があまり好きではない児童への働きかけが課題である。11月の読書月間で、本に興味をもたせる。	4	2	目標に向けて、教員は進捗状態を把握し、働きかけている。成果目標の成果が低めなのは、児童の読書目標への自己評価が伸び悩んだからである。読書に、本に興味をもたせる指導を行っていくことが課題である。
健全育成	○「あきつひがしスタンダード」を更に徹底し、学習におけるマナーの向上を図る。 自発的なあいさつができるよう学級指導を行い、学校全体で取り組む。	3	4	教員への挨拶がよくなるようになってきている。来客への挨拶や地域でのあいさつが課題である。まずは、来客への挨拶を徹底させていく。	4	4	教員への挨拶がよくなるようになってきている。今年度は来客への挨拶もよくなっている。地域でも挨拶できるようにしていくことが課題である。
	○いじめ関連事象が見られた際には、発見者がすぐに「発見カード」を記入し、報告を行う。 アンケートを年3回、児童・担任の二者面談を行い、児童の実態把握・いじめの未然防止に努める。年間3回、いじめに関する授業を行い、児童の意識を高める。	4	4	細微ないじめもきちんと聞き取り、対応している。教員間での情報共有もできている。児童の意識を高め、未然防止に力を入れる。代表委員会の取り組みが2学期あるので、きっかけにする。	4	3	細微ないじめもきちんと聞き取り、対応している。教員間での情報共有もできている。児童の意識を高め、未然防止に力を入れていくことが課題である。
健康・体力づくり	○あきひがわくわくタイムを実施し、児童の遊びの幅を広げ、体力向上を継続する。 ○走ろう会を実施し、体力向上を図る。	4	4	あきひがわくわくタイムは、休み時間などにも広がり、楽しく体を動かすきっかけになっている。体力テストでは、数年の記録をして自分の伸びを実感させている。さらに体を動かすきっかけとしていく。	4	4	あきひがわくわくタイムは、休み時間などにも広がり、楽しく体を動かすきっかけになっている。体力テストでは、数年の記録をして自分の伸びを実感させている。さらに体を動かすきっかけとしていくことが課題である。
	○毎日の給食に関する便りを発行し、児童の食事についての意識を高める。 「食育」に関する授業を栄養士と連携して行い、児童の意識を高める。	3	3	食育の授業、献立の紹介、残菜調査の紹介等で、給食に対する関心はあるが、他の項目より低い。給食前の時間などを使い、児童に食に対する関心を高める指導を重ねる。	3	3	食育の授業、献立の紹介、残菜調査の紹介等で、給食に対する関心はあるが、他の項目より低い。給食前の時間などを使い、児童に食に対する関心を高める指導を重ねていくことが課題である。
保護者・地域との連携	○学校便り、学年便りなどできめ細やかに発信していく。	4	4	おおむね評価されている。学校の教育活動をさらに紹介していく。	4	4	おおむね評価されている。学校の教育活動をさらに紹介していくとともに課題であるいじめへの取り組みを発信していく。
	○6年は全生園、5年はあきつひの園、4年ははるびの郷、3年はチロリン村、2年はうどん作りを通し、1年は昔遊びを通し、他おはなし宅配便ボボと連携して、こころの教育を進める。	4	4	年間を通して計画的に進めている。地域のよさを知り、交流した方への感謝の気持ちを引き続き、事前事後の学習なども通して育てていく。	4	4	年間を通して計画的に進めている。地域のよさを知り、交流した方への感謝の気持ちを引き続き育てていくことが課題である。
特色ある学校づくり	○ALTとの交流や、外部機関と連携した集会、授業の実施など、アクティブプランに沿った教育活動を年間35時間以上行う。	4	3	アクティブプランの進捗状態を確認しながら、外部機関と連携しながら進めていくとともに、オリンピックパラリンピック教育のさらなる推進をめざす。	4	3	年間を通して計画的に進めている。ALTを全学年効果的に活用できた。交流した方への感謝の気持ちを引き続き育てていくことが課題である。
	○ひまわり班活動を中心に、遠足や子どもまつり、ふれあい給食など他学年との交流を年15回以上実施する。	4	4	縦割り班活動で、児童の仲間意識やリーダーシップが大きく育っている。よき伝統として、児童の活動の機会を保障する。	4	4	縦割り班活動で、児童の仲間意識やリーダーシップが大きく育っている。また、今年度は、学習の成果を下学年に発表する学習も多く取り入れた。よき伝統として、児童の活動の機会を保障していくことが課題である。